アイスプラネット(3)

椎名　誠

（夏休みになってすぐ、ぐうちゃんは関東地方の各地の川の測量に出かけました。）

　夏休みも終わり近く、いつものように週末に帰ってきた父と母が話しているのが、風呂場にいる僕の耳にも入ってきた。

「僕たちは、都市のビルの中にいるからなかなか気がつかないけど、由起夫君は若い頃に世界のあちこちへ行っていたから、日本の中にいたら気がつかないことがいっぱい見えているんだろうね。なんだか羨ましいような気がするな。」

　母は、珍しくビールでも飲んだらしく、いつもよりもっと強烈に雄弁になっている。

「あなたは何を①<u>のんきなこと</u>を言っているの。由起夫が、いつまでもああやって気ままな暮らしをしているのを見ていると、悠太に悪い影響が出ないか心配でしかたがないのよ。例えば極端な話、大人になっても毎日働かなくてもいいんだ、なんて思って勉強の意欲をなくしていったとしたら、どう責任取ってくれるのかしら。」

　父が何かを答えているようだったが、はっきりとは聞こえなかった。ただ、僕のことでぐうちゃんが責められるのは少し違う気がする。そう思うと、②<u>電気の消えたぐうちゃんの部屋が急に寂しく感じられてきた</u>。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の文が、「父」と「母」、それぞれのぐうちゃんに対する思いを説明した文となるように、（　　）に当てはまる言葉を**A**は四字、**B**は七字で、それぞれ本文中から書きぬきなさい。

「父」は、世界のいろいろな所を旅し、日本の中にいたら気がつかないようなことが見えているぐうちゃんを、（ **A** ）と感じている。

一方、「母」は、ぐうちゃんの（ **B** ）が「僕」に悪い影響を与えるのではないかと心配している。

A □□□□

B □□□□□□□

(2) ――線①「のんきなこと」とあるが、なぜ「のんき」だと言っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 「僕」に会話が聞こえているかもしれないのに、「僕」の受け取り方を考えないような発言だったから。

イ 「僕」に悪い影響が出るかもしれないと心配しているのに、そういうことに考えの及んでいない発言だったから。

ウ ぐうちゃんが世界のあちこちに行っているとしても、日本にいては気づかないことが見えるとは限らないから。

［　　］

(3) ――線②「電気の消えた……寂しく感じられてきた」とあるが、このときの「僕」の心情として適当なものを選びなさい。

ア 自分に悪影響があるという理由でぐうちゃんが非難されていることに、納得のいかないものを感じている。

イ 父と母それぞれの思いを知り、意欲をもって視野を広げていこうとこれまでの考えを改めている。

ウ 母の発言から、自分とぐうちゃんの生き方には大きな違いがあることに思い至っている。

［　　］